

## サイバーセキュリティ関連情報（6月号）

鳥取県警察本部サイバー犯罪対策課

### ○ 2018年のフィッシング報告は約2万件で前年比約2倍！

2018年中にフィッシング対策協議会へ寄せられたフィッシング報告件数は、1万9,960件で、前年に比べ約2倍に増加していることがわかった。

5月29日、フィッシング対策協議会が発表した「フィッシングレポート2019」によると、銀行やクレジットカード会社を騙るフィッシングの報告も依然としてある中、宅配業者、仮想通貨交換所、映像配信事業者などを騙るフィッシングなども報告されており、攻撃者の対象とするサービスが多様化してきていることがうかがわれる。

また、2018年はAppleやAmazonなどのメジャーブランドを騙り、クレジットカード情報の詐取を目的とするものやMySoftbankなどを騙り、キャリア決済にログインするためのIDとパスワードの不正詐取を行うフィッシングサイトが多く確認されている。

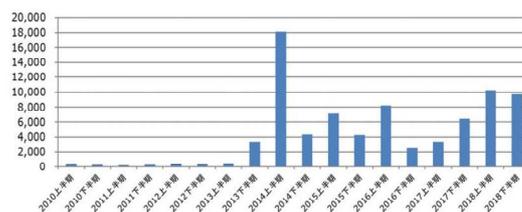


図 1-1 フィッシング情報の届け出件数

引用 フィッシング対策協議会 [https://www.antiphishing.jp/report/wg/phishing\\_report2019.html](https://www.antiphishing.jp/report/wg/phishing_report2019.html)

### ○ 東京五輪公式サイトに類似ドメインが大量取得！

早稲田大学の森達哉教授の研究グループは、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の公式サイトで使用するドメイン『tokyo2020.org』に類似したドメインが大量に取得されているという調査結果を取りまとめた。

文字列「tokyo」「2020」の双方が順不同で含まれるドメインの登録は、5月27日の時点で956件、トップレベルドメイン別に見ると

「.com」(404件)、「.tokyo」(189件)、「.org」(95件)、「.net」(68件)などとなっている。

利用目的は定かではないが、金銭的な詐欺やフィッシング攻撃に悪用される可能性もあり、セキュリティ研究者が注意を呼びかけている。

引用 SecurityNEXT <http://www.security-next.com/105352>



また、「TOKYO 2020」に関しては、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が商標を登録済みであり、公式サイトにおいても、ネットショップやオークションサイトで大会公式エンブレム等のデザインを無断使用した偽造品の出品が一部確認されていることや偽造チケットが出品されるおそれがあることから、観戦チケットは公式チケット販売チャンネルで購入するなど、関連商品等を購入する際は被害にあわないよう注意を促している。

### ■ オリンピック・パラリンピックに関する主な知的財産の一例

		Tokyo 2020	がんばれ!ニッポン!
--	--	------------	------------

引用 東京オリンピック・パラリンピック競技大会 公式サイト <https://tokyo2020.org/jp/>